

『クリスチャン・コーディネート』(コロサイ人への手紙 3:12-17) 2020.8.23.
<はじめに> 「何かをするときには…すべてをイエスの名において行いなさい」(17) いわば、クリスチャンの生活はすべてイエス・キリストの名代であると聖書は言います。この世にあって主が神の栄光を現されたように、私たちもキリストの栄光を現すようにと期待されています。

I モデルとしての私たち

①新しい人(9-10)

神はこの世界に「新しい人」をプロデュースするために、モデルとして私たちを選ばれました。モデルは着ていた古いものを脱ぎ捨てて、神が用意された「新しい人」を着るのです。「新しい人」がどんなものなのかは、12節以降に描かれています。

②神に選ばれた者(12)

私たちが選んだのではなく、神が私たちを選んでくださり、神に属する者、聖なる者と任命してくださいました(ヨハネ 15:16)。資格や資質があったからではありません。あわれみ豊かな神が私たちを愛してくださったからです(エペソ 2:4、I テモテ 1:12-16)。

③主が赦してくださった(13)

私たちはかつて神を忘れ、神に背き、敵対していました。その報いを神は私たちに負わせず、御子イエス・キリストにすべて負わせて、この御子を信じる者の罪をすべて赦してくださいました。「新しい人」を着るために、まず洗い清められるのです。

II 新しい人を着る

①自他への理解(12)

「謙遜」は自分が神に選ばれ、あわれみを受けたことから出て来ます。「深い慈愛の心」は自分が受けたあわれみと愛が他者にも、神は等しく注がれていると理解するところから出て来ます。これがベースです。

②理解から行動へ(12-13)

「親切」は相手の立場で考え、祝福します。「柔和」は自己の権利・利益を主張せず、「寛容」は他者の愚かさ・無知に反発しません。むしろ「忍耐」と「赦し」へと向かうのです。「互いに～合い」は、神の御前に進み出るときに気付かされます。

③愛を着けなさい(14)

人間を結び合わせ、数々の品徳をまとめ整えるのが「愛」です。それは律法の要約であり(マタイ 22:36-40)、神の性質の凝縮です(Iヨハネ 4:8)。愛を欠けば、先の徳目も道徳的義務となり、神の御前では無益で空しくなります(Iコリント 13:1-3)。

III 新しい人を飾る

①キリストの平和(15)

自分の願い通りになることではなく、神の御心に委ねる者に与えられる平和です。これをキリストは約束され(ヨハネ 14:27)、厳しい状況の中でも主はその心を乱されることはありませんでした(ルカ 23:46)。

②心の審判者(14-15)

複雑で悩ましいこの世を生きる私たちにとって、行動・判断を決する審判者としてキリストの平和に目を留めましょう。世は正論と様々な思惑が入り乱れています。私たちはキリストが何とされているかに関心を払います。神の愚かささえ、人よりも賢いからです。

③感謝と賛美(15-16)

キリストの平安があるところには感謝と賛美が溢れます。主が教え示してくださったことを、互いに分かち合い、励まし合う交わりが育まれます。新しい人を着た人たちが構成される新しいステージに、神の栄光が現れます。

<おわりに> クリスチャンらしさとは何でしょうか。言動だけでなく、雰囲気・品性にまでキリストらしさが現れることです。キリストは、私たちに「新しい人」を着させて、その輝きをこの世に現わそうと、私たちを招かれています。備えられた「新しい人」を受け取りましょう。(H.M.)